

なぜ市民参加はうまくいかないのか

～琵琶湖の総合保全における経験と
新時代の多主体協働～

滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
専門研究員 佐藤祐一

環境保全の「市民参加」あるある



行政がもっと予算を付けてやらないと。活動の世代交代が課題、若い人が入ってこない。

団塊世代

市民がもっと主体的になってくれないかなあ。負担が行政に集中して困る。

行政職員



平日は授業で休日はバイトで忙しい。ボランティアに関心はあるけど何をしたらいいのか…。

学生

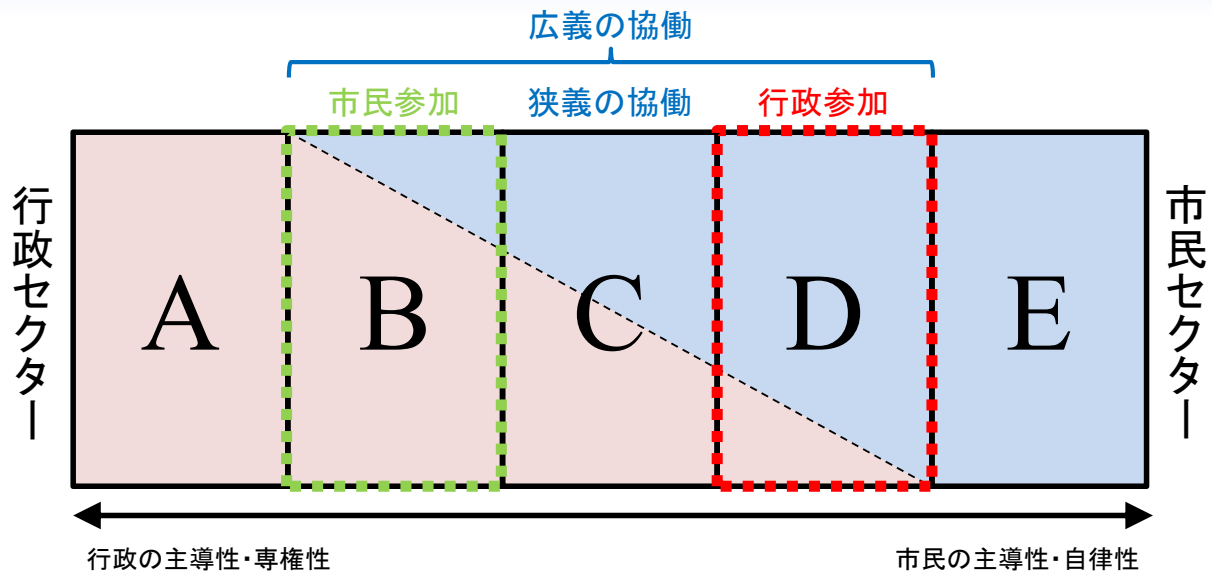


夫婦共働きで育児もあり、ボランティアの時間なんて全然取れないよ。

子育て世代



「市民参加」「行政参加」と「協働」の関係



- A: 行政が執行者として責任をもつて行う領域
- B: 行政が主導し、市民に委嘱する市民参加方式による領域
- C: 行政と市民が協働で立案・実行する領域
- D: 市民が主導し、行政が積極的な支援をする領域
- E: 市民が主体的かつ自立的に活動する領域

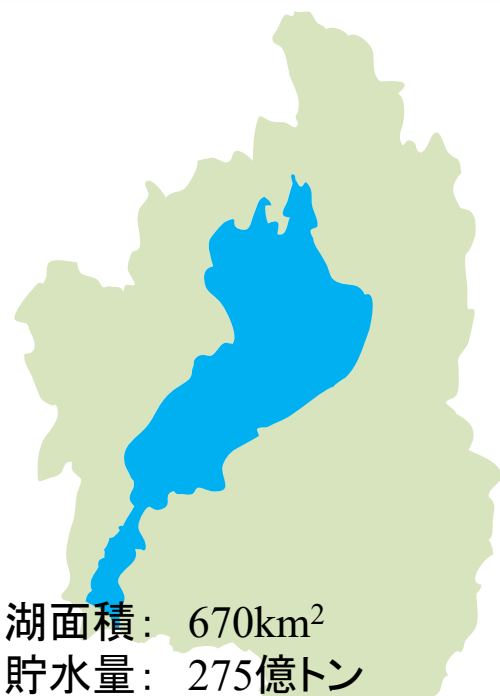
出典: 世古一穂「参加のデザインを学ぼう」TRCブックレット3(2012)に加筆

印旛沼流域と琵琶湖流域



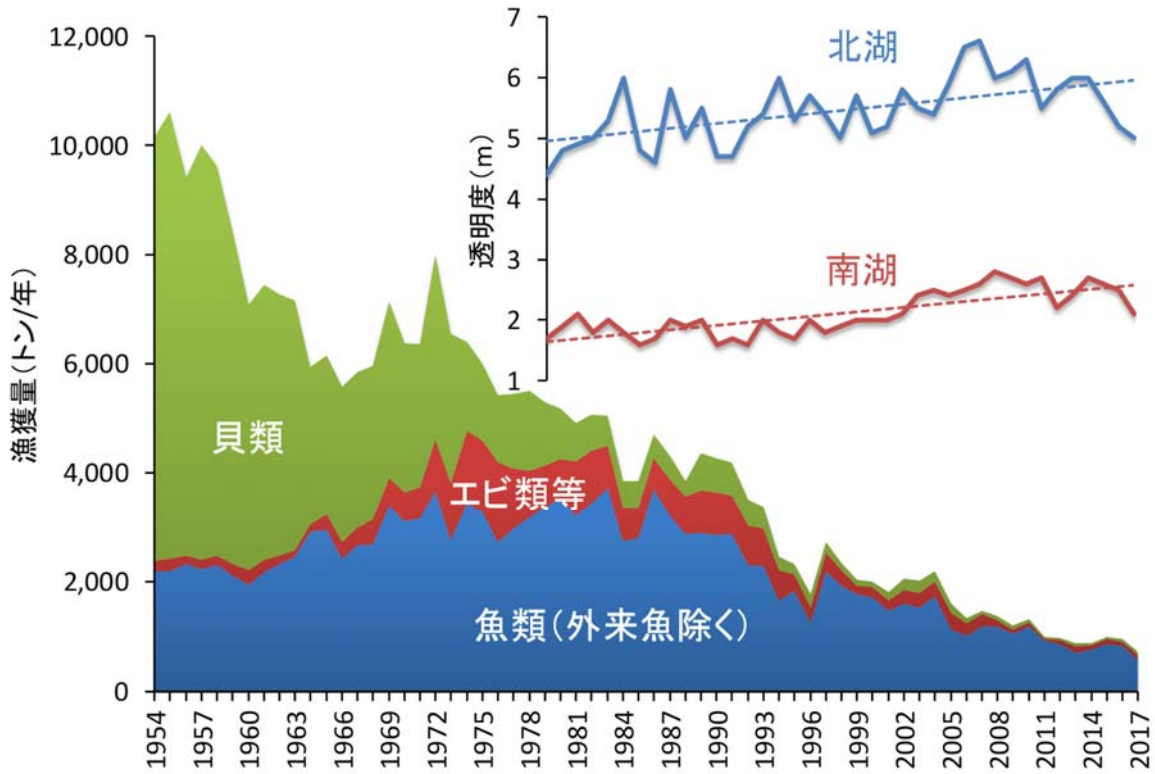
湖面積: 11.55km²
 貯水量: 0.197億トン
 平均水深: 1.7m
 流域面積: 494.0km²

出典: 印旛沼水質保全協議会Webサイト



湖面積: 670km²
 貯水量: 275億トン
 平均水深: 43m(北湖)、4m(南湖)
 流域面積: 3,714km²

琵琶湖の透明度と漁獲量



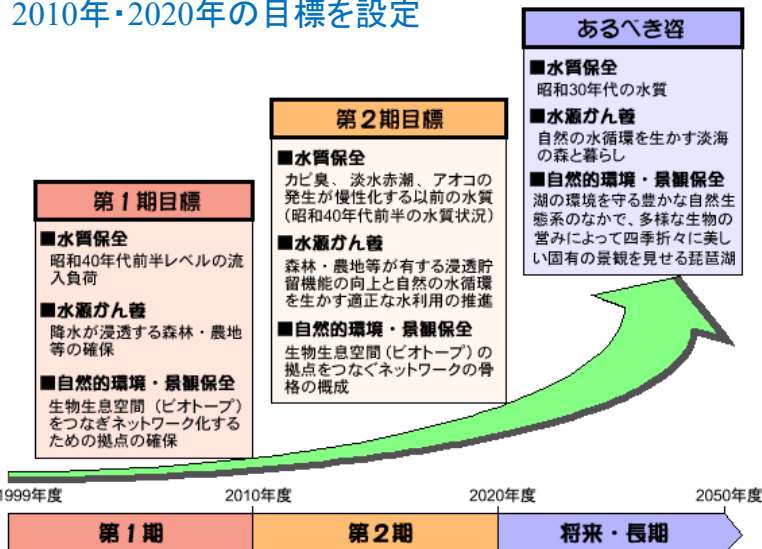
出典: 滋賀県資料より作成

琵琶湖の総合保全のため、マザーレイク21計画(第1期)が策定された(2000年)

基本理念

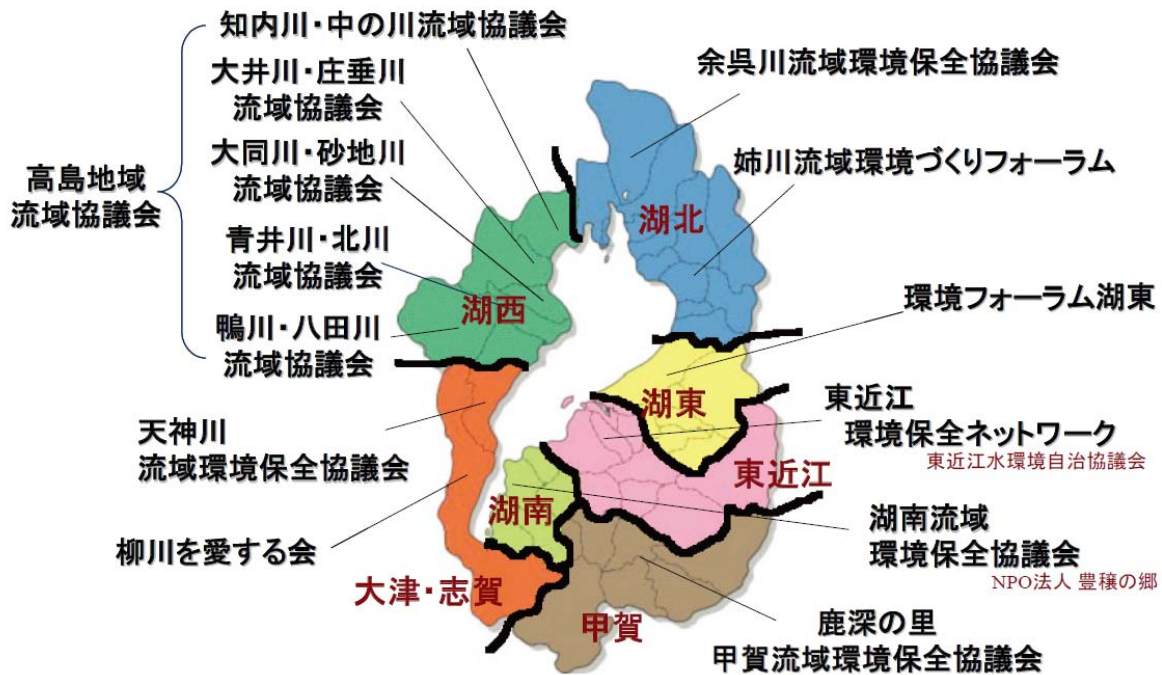
琵琶湖と人との共生
(琵琶湖を健全な姿で次世代に継承します)

2050年頃の琵琶湖のあるべき姿を念頭に、
2010年・2020年の目標を設定



出典: マザーレイク21計画(第1期)

河川流域単位での取り組みを促進するため、 流域協議会が設立された



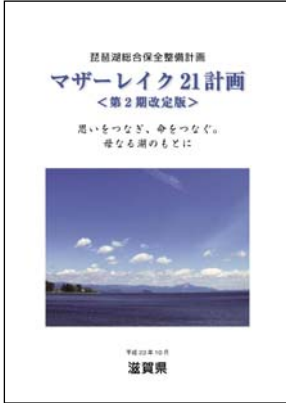
→「協働することで解決したい課題は何か」を明確に

出典：井手(2006)滋賀県立大学環境科学部年報第10号

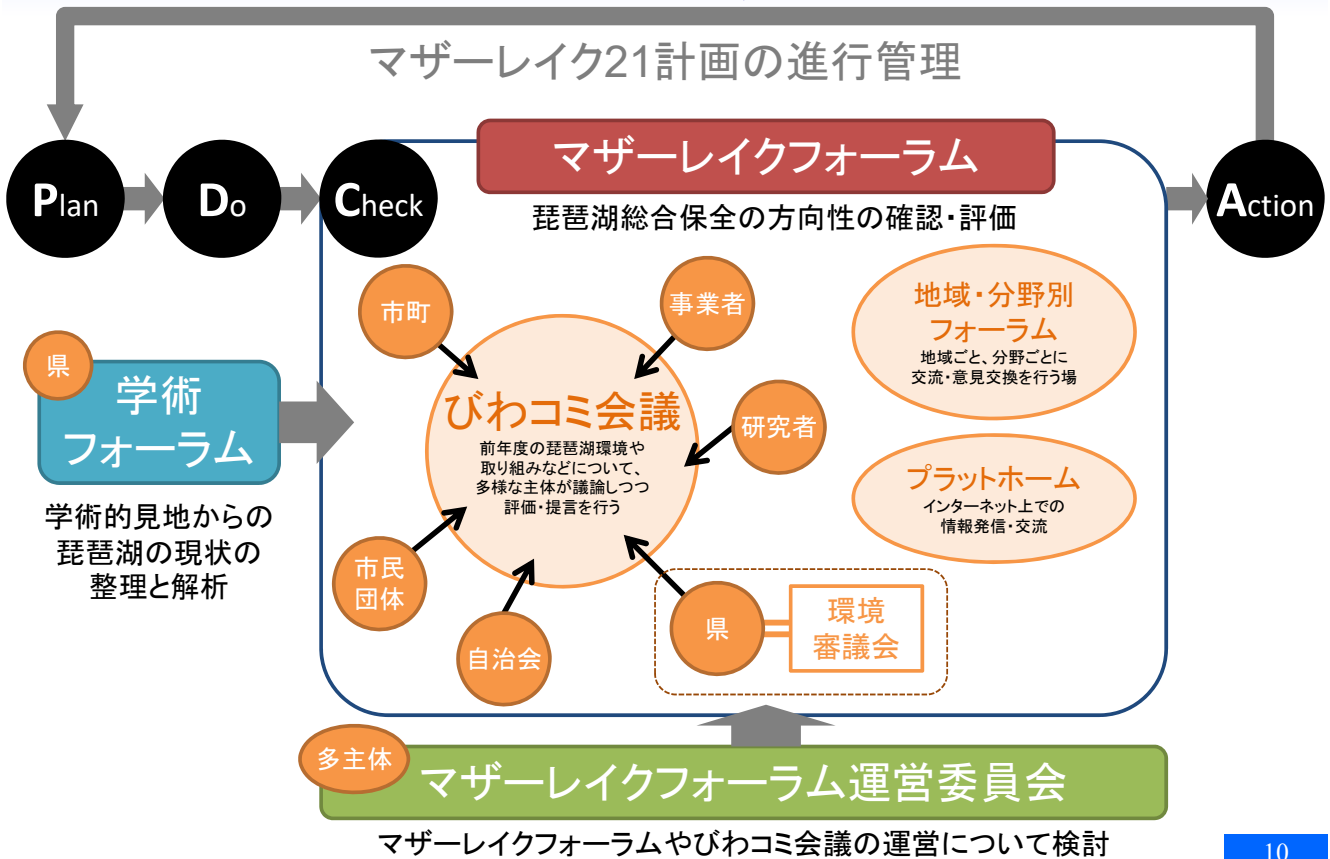
そこで多様な市民が集まり、
2020年の琵琶湖の将来像を作る研究会を始動
(2008～2010年度)



完成した将来像は、マザーレイク21計画(第2期)に取り入れられた



自分たちでつくった計画の進行管理をするため、マザーレイクフォーラムができた



琵琶湖の現状を確認し、 これから私たちにできることを話し合う 「びわコミ会議」を開催(計9回)



- 多様な主体が参加する進行管理のモデルケース
- 新しい層へのアプローチと緩やかなつながりの構築
- 新たな活動や事業展開のきっかけづくり

11

「びわコミ会議」のプログラム

■ プログラム

- 午前 みんなつながる報告会
- 午後 びわ湖のこれから話さへん？

■ 特徴

- 最新データの公開(びわ湖なう)
- 活動報告を通じた1年間の振り返り
- 小グループでの議論
- コミットメント(約束)の提示
- 議論を元にした計画の評価・提言



グループディスカッションの様子



コミットメントの提示

12

びわコミ会議の議論から「びわ湖との約束」を作成



- 7つの目標
 - 21のターゲット
- 毎年の議論を踏まえ見直していく



琵琶湖流域の「いま」が一目で分かる冊子を毎年発刊

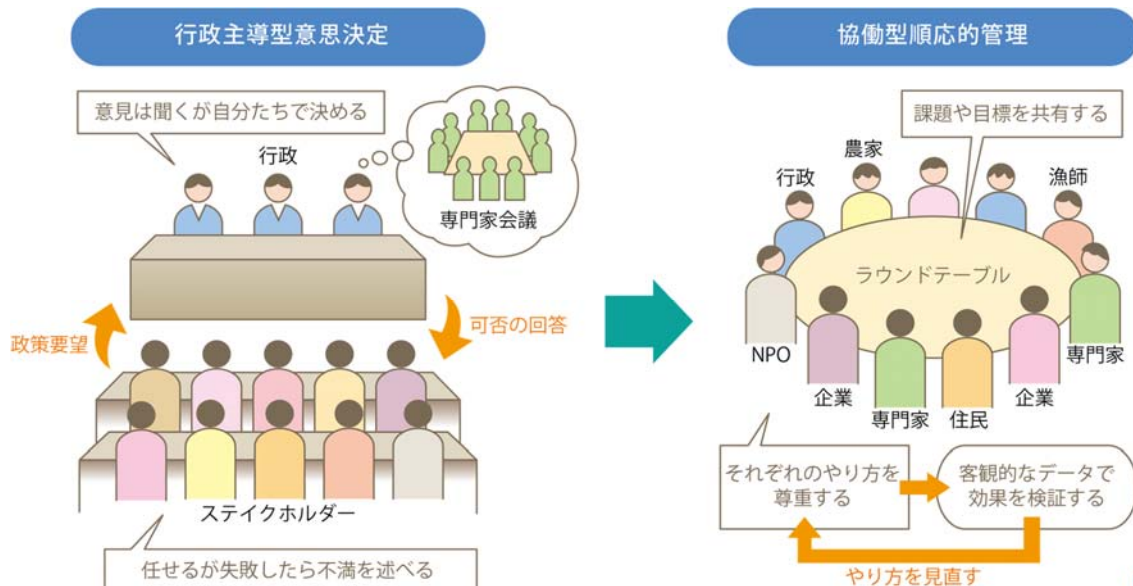


寄付金をいただき、
それを原資に新たな活動が展開できた



マザーレイクフォーラムのポイント

- 「みんなでつくった計画だから、みんなで進行管理していこう」ということで、マザーレイクフォーラムが始まった。
- MLFでは行政も参加メンバーのひとつ(行政参加)。「市民・県民が要望し、行政が応える」という関係性ではなく、「課題を共有し、自分(たち)にできることを考える」という関係性を目指している。



マザーレイクフォーラムの課題と方向性

課題

- 成果の反映が限定的
- 参加の裾野の拡大が不十分
- 地域活動との連携や展開が不十分

方向性

- 参加のインセンティブをつくる
- 市民らの創発を生み出す

ML21計画が終期を迎えるのを機に、マザーレイクフォーラムは解散。来年度から新たな体制で臨む。

17

新たな動き例① ～新スタイルの清掃活動～



出典：淡海を守る釣り人の会

18

新たな動き例② ～市民が関わる自然再生～



19

新たな動き例③

～コロナ禍でのオンラインでのつながり～

びわコミ会議2020オンラインワークショップ「びわ湖とSDGs」
びわ湖とお金
～SDGsでお金を回す方法～

講師：SDGs Impact Laboratory
代表理事 上田 隼也 氏
司会：NPO法人碧いびわ湖
常務理事 根木山恒平 氏

味わうびわ湖
若手漁師見習いと料理人による
湖魚スペシャルトーク&クッキング

【お話し】 塚本 千穂
【お話し】 小松 聖晃
【お話し】 小松 聖晃

詳細の魚について若者視点で語り、また料理して食べ尽くす2時間
タイプ1【お魚を中心として、その旬の旨味や産地、料理などについて、コミュニティディレクターの深田善弘氏が、ラサスの発祥地に詳しい小松聖晃氏と若手漁師見習いの塚本千穂氏から話を伺います。
後半では実際に湖魚を使った料理を伺い、美味しい料理などを併せて、これでもたもた風魚料理アツクになると聞かれます！

日時：11月7日（土）18:00～20:00
場所：Youtubeライブにより配信
※お申し込みなしに視聴できます。コメントでご参加ください。
問い合わせ：滋賀県琵琶湖保全推進課
077-528-3466 dk00@pref.shiga.lg.jp

主催：マザーレイクフォーラム運営委員会 滋賀県

びわコミ会議2020オンラインワークショップ「びわ湖を伝える」
県庁YouTuber
養成講座
VS
大学生

県職員 (えらい人)
大学生

11月12日（木）15:00-17:00 Zoomミーティングで開催
参加申し込み：dk00@pref.shiga.lg.jp

コロナ禍での
びわ湖とツーリズム
滋賀県の高校生・大学生と考える！

龍谷大学 Sayaka TOMISU
立命館守山高校 Kokoro TANIGUCHI
司会進行

2020.11.20.Fri
16:00-17:30 @Zoom

参加方法 QRコードを読み取り
Zoomにご参加
ください

定員 50名 (先着順)

URL: <https://forms.gle/WqJ3mmvH9kLNDtE7>

タイムスケジュール
16:00-16:10 趣意説明
16:10-17:00 びわ湖ツアープレゼン
17:00-17:05 投票・結果発表
17:05-17:20 ブラッシュアップ
17:20-17:25 びわ湖との約束
17:25-17:30 記念撮影

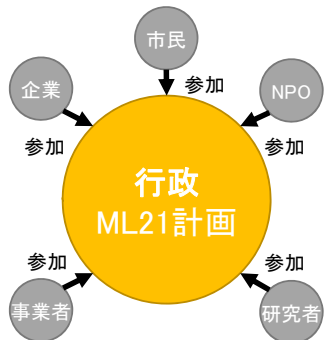
びわコミ会議2020
「マザーレイクフォーラムびわこ会議」は
琵琶湖やその周辺で環境保全活動に取り組む
県民、市民団体、企業、行政、専門家などが、
立場を超えてお互いの経験や思いを
共有し、琵琶湖の将来のために
話し合います。

20

ポスト・マザーレイク21計画の形

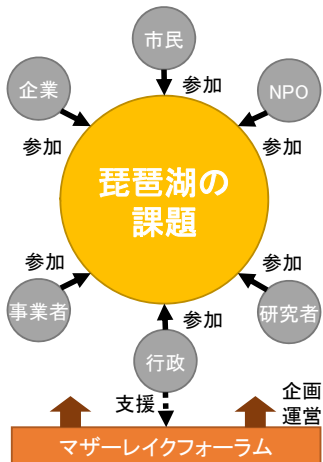
第1期ML計画 → 第2期ML計画 → ポストML計画

行政主導・市民参加型
環境保全



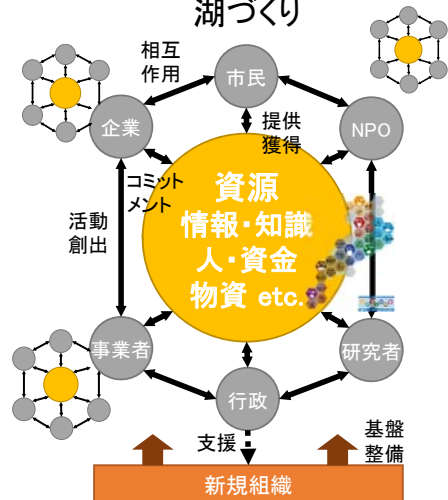
- **計画の実施主体は行政。**行政が実施する様々な施策に、市民・県民が参加する方式。
- 財政面や権限において行政が強い影響力。
- 行政が有識者・ステイクホルダー代表とともに政策の意思決定(+議会で承認)。

課題中心・行政参加型
総合保全



- 多様な主体で構成されるMLFの主たる課題は「対話の場づくり」。計画の進行管理もMLFが担う。
- 琵琶湖の課題を真ん中に置き、そこに多様な主体が集い対話する。行政も一参加者。
- 指標によるアウトカム評価、参加型の目標(取り組み)設定。

資源共有・創発型
湖づくり



- 琵琶湖に関する資源を開かれたものにする(オープンデータ、オープンガバメント、オープンソース、オープンサイエンスetc.)。
- 新規組織はそのための基盤を整備する(OS = LINUXのような)。
- 個々の主体が資源を元に、相互作用しながら自由な発想で湖づくりを行う(アプリケーション)。